



平成 20 年 9 月 26 日

各 位

会社名 株式会社 富士通ゼネラル
 代表者名 代表取締役社長 大石 悠弘
 (コード番号 6755 東証・大証・名証各市場第一部)
 問合せ先 法務部長 加納 俊男
 TEL (044) 861-7627

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 4 月 25 日の決算発表時に公表した平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 3 月期第 2 四半期累計期間 業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

1) 連結

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 20 年 4 月 25 日発表)	107,000	3,800	1,800	700
今 回 修 正 (B)	109,000	4,000	3,300	1,200
増 減 額 (B-A)	2,000	200	1,500	500
増 減 率 (%)	1.9	5.3	83.3	71.4
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	111,738	3,988	2,678	1,001

2) 単独

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 20 年 4 月 25 日発表)	89,000	1,400	1,000	1,000
今 回 修 正 (B)	90,000	1,200	1,900	1,200
増 減 額 (B-A)	1,000	△200	900	200
増 減 率 (%)	1.1	△14.3	90.0	20.0
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 20 年 3 月期第 2 四半期)	95,999	1,643	1,530	609

2. 平成 21 年 3 月期通期 業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

1) 連結

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 20 年 4 月 25 日発表)	236,000	12,000	7,500	3,800
今 回 修 正 (B)	223,000	9,100	7,500	3,800
増 減 額 (B-A)	△13,000	△2,900	—	—
増 減 率 (%)	△5.5	△24.2	—	—
(ご参考) 前期 (平成 20 年 3 月期) 実績	222,654	10,205	7,085	2,927

2) 単独

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年4月25日発表)	196,000	6,000	3,500	2,500
今回修正(B)	183,000	4,300	3,500	2,200
増減額(B-A)	△13,000	△1,700	—	△300
増減率(%)	△6.6	△28.3	—	△12.0
(ご参考) 前期(平成20年3月期)実績	185,461	4,660	3,652	1,164

3. 修正の理由

当第2四半期累計期間の連結業績予想につきましては、国内市場におけるエアコン販売が、準高級機種「ノクリア Sシリーズ」の投入効果に加え天候にも恵まれ、好調に推移しております。一方、海外では、欧州向けエアコンの売上が天候不順と個人消費の低迷から減少しておりますが、需要が堅調な中東、アジア向けの販売が増加しており、これらにより売上高は計画を上回る見込みです。

損益については、第2四半期に鋼材価格高騰の影響が顕在化いたしました。高単価商品の拡販を重点的に進めた国内向けエアコンの利益率改善に加えコストダウンと経費削減に努めたことや、為替差益等により、営業利益、経常利益、当期純利益は計画を上回る見通しであります。

通期の連結業績予想につきましては、中長期的には世界のエアコン市場は拡大基調にあるものの、世界的な景気減速の影響や為替動向等が不透明なことに加え、当社の主力市場である欧州向けエアコンの販売計画を、上半期の天候不順を踏まえて見直したことなどにより、売上高は計画を下回る見込みです。

損益につきましては、引き続きコストダウンと経費削減を進めてまいります。第3四半期以降の売上減に加え鋼材価格高騰の影響も懸念されることから、営業利益は計画を下回る見通しです。経常利益については、第2四半期累計期間の改善効果に加え、引き続き資産効率の向上や遊休・廃却資産の発生防止など経営全般における効率改善を進めることにより、前回公表の予想値を達成できる見通しです。当期純利益についても、第3四半期に関係会社株式売却益を特別利益として計上する一方で保有資産の再活用に向けた費用支出の計画などを踏まえ、前回公表の予想値を据え置くことといたします。

単独の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の営業利益および通期の当期純利益が前回公表の予想値を下回りますが、概ね連結と同様の状況であります。

以 上